

とどくようひ  
鮠供養碑

指定種別：市指定文化財

指 定 日：令和3年3月25日

所 在 地：釜石市両石町

制 作 年：安政5(1858)年

寸 法：高さ210cm 最大幅50cm 奥行50cm

銘 文：正面 鮠供養 富村 安全

側面 安政五戊午年三月吉日



鮠供養碑は、江戸時代に両石村の年中行事であった鮠漁の供養碑で、安政5(1858)年3月に同村の人々により建立されたものです。

両石の鮠漁は、江戸中期に始まったといわれ、明治29(1896)年6月15日に発生した明治三陸地震津波の前まで行われていました。毎年12月頃から翌年の5月頃まで、両石村の人々は、北の海から三陸近海に回遊して三貫島に集まり漁場を荒らす鮠の群れを麻網で捕獲し、肉と皮を塩漬けにして盛岡に駄送しました。その肉は食用、皮は細工物として利用されていました。

この石碑は、釜石のみならず三陸沿岸部において鮠漁を伝える唯一の碑であり、地域の協同作業により地域経済発展に寄与した鮠漁の歴史を伝えるうえで、大変貴重なものです。